

（仮称）道の駅「蒲原」基本構想【概要版】 1/2

蒲原地区における道の駅整備に向けた検討経緯

蒲原地区は、江戸時代に整備された東海道の15番目の宿場町として栄えましたが、近年は来訪者が地区内を周遊する機会が減り、人口減少・少子高齢化という社会情勢も重なって、街の活力が減退しつつあります。

そこで、道路利用者や来訪者に対し、かつての宿場町のような溜りの空間を提供し、蒲原のまちを周遊してもらうきっかけを創り出すため、2017年度に蒲原地区連合自治会より、蒲原地区内に道の駅整備の要望書が提出されるほか、2019年度より蒲原地区の活性化を目的に、定期的な勉強会が開催され、気運が高まる中で、道の駅整備の可能性についても検討を重ねてきました。

【道の駅整備の方向性】

本市の道の駅のあるべき姿が記載され、今後の検討の指針となる、静岡市道の駅基本構想を2019年に策定しました。蒲原地区は、6路線抽出した「整備検討路線」の1つである、国道1号バイパスの沿線に位置しており、より効果的に市内外から人や物呼び込むことができる路線であることから、地域住民に限らず市外または県外・国外からの来訪者を想定した「広域交流拠点型」の道の駅として整備を進めます。

広域交流拠点型の道の駅のイメージ



【トライアルパーク蒲原】

蒲原地区における持続可能な道の駅の運営のため、道の駅の事業参入について、行政側で民間事業者へのニーズ調査を実施したところ、好意見が得られた一方、「本当に集客できるか断言できない」など不安視をする意見もいただきました。

そこで、初めから道の駅の整備に着手するのではなく、市場調査と暫定運用を同時に行うことができる官民連携手法である、トライアル・サウンディング手法により、関係者の協力を得て、旧県立庵原高校グラウンド跡地に、「トライアルパーク蒲原」を2022年に整備（暫定利用）しました。



蒲原地区から富士山を望む



週末のイベント状況

施設運営では、富士山の眺望がよい立地から、平日は周辺住民の公園利用として、週末は施設運営者によるイベント開催により、市内外から多くの方が来場し、また地元の行事にも活用されるなど、地域の賑わいの創出に寄与しています。

このように、トライアル・サウンディング実施期間（2022年7月～2025年3月）では、様々な取組によって「道の駅」に必要な機能が整理されたことから、今後の計画に反映していきます。

国道1号バイパス富士川周辺における課題

富士川周辺の国道1号は、首都圏と中京圏・関西圏を結ぶとともに、静岡市と富士市を結ぶ地方幹線として重要な道路である一方で、駿河湾に並行し、過去から巨大地震時の津波による通行止めが発生し、台風時の高潮に伴い発生する越波による通行止めの回数・規模が悪化傾向にあります。

しかしながら、現在、国道1号の利用者の休憩機能としては、富士川左岸にある道の駅「富士」が担っているものの、交通量に見合う駐車スペースが確保できていない状況であるとともに、災害時や新富士川橋の通行止め時は、避難所・待避所として活用できない等、防災機能に課題が生じています。



富士川河川敷等への停車状況



高潮被害による通行止め状況

以上のことから、国道1号 富士川周辺の休憩・防災機能のあり方、強化方策をとりまとめるため、「国道1号 富士川周辺における休憩・防災機能強化に向けた検討会」（事務局：国土交通省 静岡国道事務所）が設置され、関係機関との協議が実施されています。

2025年9月に開催された検討会において、国道1号 富士川周辺における休憩機能および防災機能のあり方を踏まえた、新たな休憩施設の整備の必要性について、蒲原地区が休憩施設整備可能な候補地であること、また当該候補地が、災害時の一時待避場所や道路啓開における拠点場所として活用できることを確認しました。

【蒲原地区に新たな休憩・防災機能強化を目指す理由と期待される効果】

国道1号 富士川周辺の休憩機能・防災機能の強化を図るため、近傍適所で新たな休憩施設の整備に関する適地調査を実施した結果、県立庵原高校が廃校になり、グラウンド跡地の有効活用が可能であることに加え、道路利用者の一時退避や待機場所としてのニーズが確認されている蒲原地区を新たな休憩施設の整備可能な候補地としました。

当該エリアは、平時では不足する駐車スペースの確保、災害発生時では一時退避や待機場所としての役割に加え、前面道路（国道1号）が道路啓開計画（中部版くしの歯作戦）における東名高速道路 富士川サービスエリア・スマートインターチェンジからの道路啓開ルートに指定されていることから、資機材拠点・集合場所としての活用が期待されます。

【ハザードに対する対応】

当該エリア周辺は、富士川の洪水及び高潮浸水ハザードに指定されており（地震時における津波浸水ハザードには未指定）、地域住民及び来訪者の安全性を確保するうえでは、十分な対策が必要です。

具体的には、休憩施設の整備可能な候補地の防災強化などハード対策に加え、BCP（業務継続計画）の策定や適切な案内誘導・情報提供の実施といったソフト面の対策を講じ、十分な防災機能を確保します。

（仮称）道の駅「蒲原」基本構想【概要版】 2/2

蒲原地区の特徴

道の駅整備予定地の近傍には由比漁港が立地しており、新鮮な桜えびを求め市内外から多くの来訪者が訪れ、また、いわしの削り節等の加工商品の製造・販売も盛んに行われているほか、鋼構造物の塗装業といった工業をはじめ、蒲原古代塗といった伝統工芸も息づいています。

また、蒲原地区は、静岡市文化財保存活用地域計画内で文化財保存活用区域に指定されており、日本風景街道「駿河2峠6宿風景街道」の起点に位置しているほか、当該地区を含む駿河湾一体は、太平洋岸自転車道がナショナルサイクルルートに指定されているなど、多彩な地域資源を有しています。



利用者・居住者ニーズ

「静岡市」「富士市」「沼津市」1,000名の居住者を対象にアンケートした結果、「道の駅に あったら訪れたい施設・機能」については、『由比市場の海鮮を活用した飲食・物販施設』、特産品（水産物）を活かした飲食・物販・体験コンテンツや『温浴施設』に高い関心があることが把握できました。

また、清水区居住者を対象にアンケートした結果、「道の駅整備について期待する効果や機能」については、『日常の買い物・食事の利便向上』、『地区・市外からの集客によるにぎわいの形成』、『1日ゆったりと過ごせる憩いの場の形成』について期待が高いことが把握できました。

道の駅整備コンセプト

（仮称）道の駅「蒲原」は、地区の歴史・文化等の地域資源を活用し、静岡市や蒲原の“魅力”や“らしさ”を発信し、全国から人々が訪れ・交わる「道の駅」を目指します。

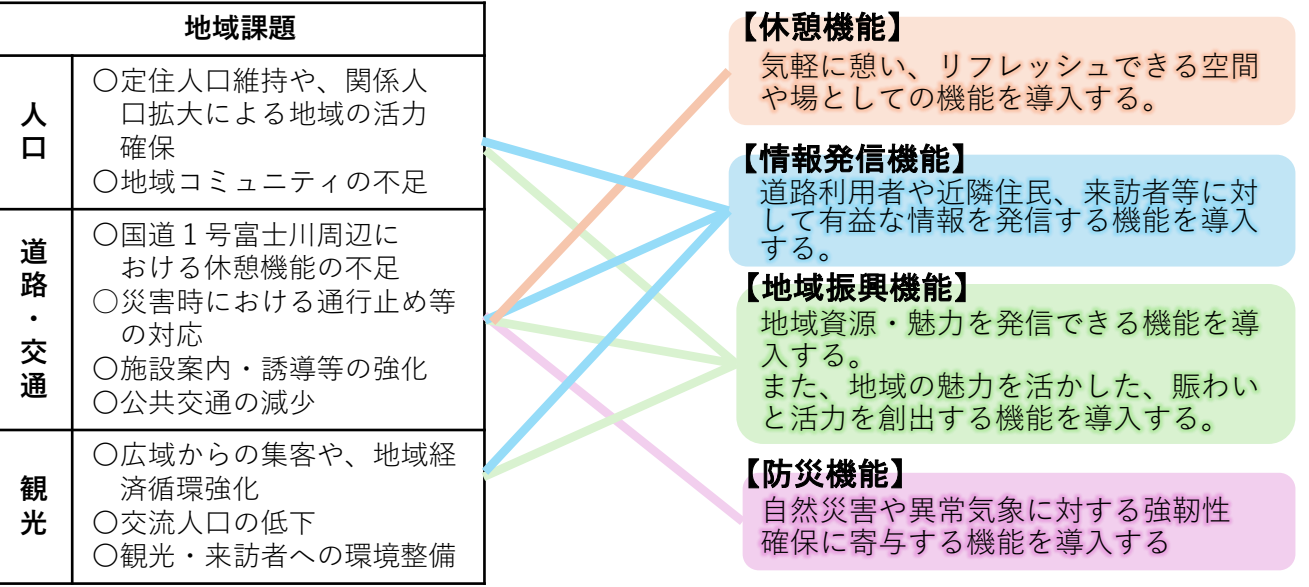
交流、体験、情報、歴史・食文化といった地域の魅力が集う、“蒲原らしさ”で溢れるサービスで訪れる人を迎え入れ、周辺地域への周遊促進と共栄をはかります。



イキ
地域の宝を育み、人が行き交い
イキ
歴史が息づく、憩いの場

道の駅導入機能の整備方針

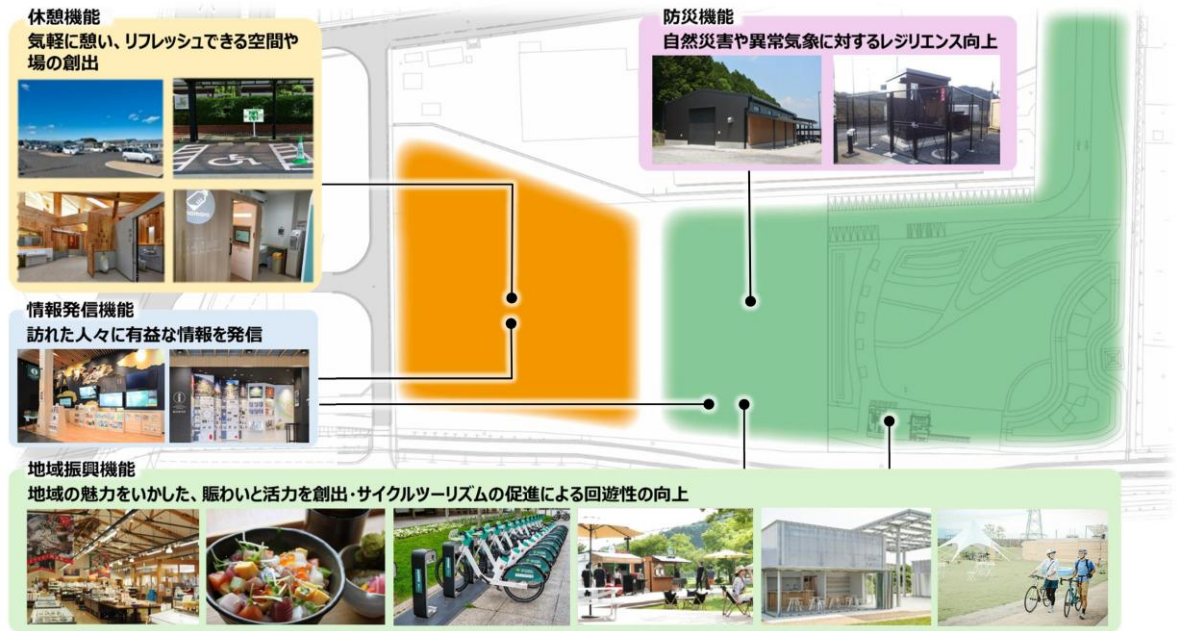
道の駅は、地域課題解決や地方創生の手法として全国で活用されています。蒲原地区の現況から想定される「人口」「道路・交通」「観光」等の課題についても、道の駅による解決が可能と考えられます。



（仮称）道の駅「蒲原」では、静岡市道の駅基本構想の基本方針や地域課題を踏まえ、休憩機能、情報発信機能、地域振興機能に加え防災機能の4機能とします。

道の駅の整備イメージ

各機能の配置は以下のようなイメージです。なお、トライアルパーク蒲原については、道の駅化に向けた暫定整備で進めていたことから、今後は地域振興施設と一体的な整備・運営を行います。



※今後の設計・協議等により変更になる可能性があります。

道の駅の整備・管理運営手法

道の駅の整備・管理運営手法の検討にあたっては、官民連携手法の導入を検討します。民間の創意工夫や資金、技術を活用し、行政の効率化や財政資金の有効活用を図ることで、良質な公共サービスの提供やコスト削減、地域活性化などが期待できます。今後、民間事業者への参画意向把握等を通じ、整備・運営手法を今後具体的に検討します。